



©Yuki Asada

## 一本の針から広がる世界

ある冬の日、ドアを開けると、数人の女性たちが、カラフルな布を手をひたすら針を動かしていた。チクチクチク…。そんな音が聞こえてきそうだ。

アフリカ南部に浮かぶ島国マダガスカル第2の都市、アンチラベ。日本では、作家・曾野綾子氏の小説の舞台になった「アヴェ・マリア産院」がある町として、なじみのある人もいるのではないだろうか。

その縁もあり、曾野氏が設立時に支援した地元NGO「チンジャンジャラ」では、貧しさ故に学校に通えない女性たちを対象に、識字教育や職業訓練を行っている。2009年からは青年海外協力隊の阿部美香子さんが家政隊

員として裁縫技術を指導。阿部さんの熱意と温かいまなざしに支えられながら、女性たちは1本の刺しゅう針を巧みに操り、見る見るうちに美しい線を描けるようになった。

昨年からはお土産物用に商品の種類を増やして販売。各都市の見本市でも好評だ。「私がいなくなっても、彼女たちが活動を続けていけるように」。阿部さんはそんな思いで、製作や販売にかかわるお金の管理のノウハウも伝え始めた。

マダガスカルの風の音が聞こえてきそうなさわやかな雑貨。手に取ると、楽しそうに針を動かす女性たちの明るい笑顔が目につく。



阿部隊員(左)から裁縫技術を学ぶ女性。手先の器用さは見事なものだ

★グリーティングカードを3人、キーホルダー、化粧ポーチを各2人、ブックマーク、シュシュ、携帯ストラップを各1人にプレゼント! 詳細は38ページへ→



マダガスカル  
アンチラベ